香取遺産

vol.192 与倉屋の大土蔵

①佐原市街地遠望（昭和９年）
②大土蔵の外観
③山車が展示されている大土蔵の内部

昭和10年、当時の佐原町は人口1万8124人の香取郡の中核的な町で、現在の佐原信用金庫本店裏手付近には香取郡役所が置かれていました。明治31年に、成田鉄道（現JR成田線）が佐原まで乗り入れ、この当時は松岸（現銚子市）まで開通していました。

佐原地域の市街地南側に位置する石尊山から、北に向かって撮影された昭和9年の写真（写真①）には、遠くに利根川の流れを望み、その手前に瓦屋根を載せた新宿の家並みが広がっているのを見ることができます。手前に見える大きな蔵造りの建物は与倉屋（菅井家）の大土蔵と樽蔵です。大きな屋根を載せた土蔵と、その左側に同じような形の樽蔵が4棟（現在は3棟）連なっています。

与倉屋の大土蔵は、明治22年に建設された建坪254坪（840㎡）、高さ12mほどの規模の大きな建物です。道路に沿って不整形な八角形平面をしており、中に入ると、その広さとともに、複雑に梁と桁が交差する小屋組みからなる独特な空間に目を奪われます。かつて下見板が張られていたモルタル塗りの外壁は、折釘が並び碍子配線が張られています。

与倉屋は江戸時代後期から酒造業を営み、明治期には醤油醸造業に移行しています。昭和期には、大土蔵は政府米の倉庫などとして使われていたこともあるそうです。通常は非公開ですが、今も講演や演奏会、イベントの際には会場として活用されています。

このほど国際「なかなか遺産」推進委員会から「なかなか見る人を唸らせ、次世代に継承させたいと思わせる遺産」として、なかなか遺産第7号に認証されました。

問 生涯学習課 ☎(50)1224